

しあわせおっばい通信

岐阜県総合医療センター 8階東病棟 Vol.50 2023年秋号



母乳育児とお母さんの病気の話

母乳には赤ちゃんの体を守るための免疫成分を多く含んでいたり、赤ちゃんのアレルギー予防にも効果があったりと赤ちゃんへのメリットがたくさんあります。それだけでなく、実は**母乳をあげているお母さんの女性疾患のリスクを下げる**効果があることも明らかになっています。

乳がん

乳がんは女性のがんで**最も多いがん**です。母乳育児の経験や母乳を与える期間が長いほど乳がんの発症リスクが低くなります。これは閉経前・閉経後どちらの女性でも同じ傾向があります。2007年に行われた分析では、授乳期間5カ月ごとに2%の乳がんリスクが下がることが示されました。



卵巣がん

卵巣がんは早期発見が難しく、**予後不良ながん**の1つです。卵巣がん発症リスクは、母乳期間が1~3ヶ月で18%低下、12ヶ月以上で34%低下しました。また母乳育児は出産回数に関係なく浸潤性卵巣がん、特に悪性度の高い漿液性/類内膜がんのリスクを低下させます。



子宮内膜症は20~30代での発症が多く、**痛みや不妊の原因**になる疾患です。母乳栄養期間が3ヵ月増えるごとに子宮内膜症のリスクが8%、完全母乳では14%低下します。また生涯に母乳栄養を合計36ヵ月以上行った女性は、全く行わなかった女性に比べ、子宮内膜症リスクが40%低いことも明らかになっています。



子宮体がんは50歳代からの発症が多く、**不正出血をきっかけ**に発見されることが多いです。母乳育児の女性は、そうではない女性に比べ、子宮体がんの発症リスクが約11%低いことがわかりました。母乳育児の期間が6~9ヵ月間の人が一番リスクは低いですが、それ以上長く母乳を与えると、逆にこの影響が弱まる傾向もみられました。

子宮内膜症

子宮体がん

母乳栄養でお母さんの女性疾患のリスクは下がりますが、一番大切なのは**早期発見・早期治療**です。普段はない症状が出たり、自分の身体に違和感があったりしたら一度お近くのクリニックを受診してください。症状がなくても**がん検診は定期的に**受けましょう！

